

第1回 四国聖化交友会 報告  
 聖化大会

日本イエス・キリスト教団 唐渡 弘  
 高松田村町教会牧師

昨年、二〇〇七年に発足し、皆様の仲間に加わりました四国聖化交友会より、皆様の祈りを感謝して、第二回四国聖化大会の報告を申し上げます。

発足時より待ち望まれ準備されてきた第二回大会は、まだ梅雨の明けない六月二十九日(日)の午後と夜に、香川県高松市にある高松田村町教会を会場に行われました。講師は、東京より、中目黒キリスト教会牧師で日本聖化協力会副会長の竿代照夫先生を迎えました。当日も雨が心配されましたが、時々の雨の中に、礼拝を終えて、高知県、愛媛県、徳島県、そして地元香川県の十五ほどの教会より、延べ四十五名ほどの参加者でした。参加者の所属教会は、インマヌエル綜合伝道団、日本伝道隊、福音教団、福音宣教会、キリスト伝道隊、J.E.C.A.、福音教会連合、救世軍、単立、日本イエス・キリスト教団でした。ホーリネス教団の教会は、翌日の行事の都合で参加でき



ませんでした。

「聖化の喜び」第二回四国聖化大会」と名づけられた集会は、午後三時より第一部の集会、「聖くされることを求めなさい」(聖書へブル十二章十一-十七節)を主題に、竿代先生が祈り備えられたメッセージを語られました。「私たちの聖化は、神がわたしたちを聖くして下さること」が心にとどまりました。また、教職十余名の特別賛美がありました。「いかに汚れたる者の心を」「主よわが罪と汚れをき

よめ」の二曲は、小さい会堂と出席者一同の心に響き渡りました。

五時過ぎより、二十五名の方々が手作りの食事を共にして交わりました。

午後六時半より第二部のセミナー「聖化の転機」(聖書・ローマ六章十一節)が、竿代先生が翻訳されたホリス・F・アボット師の「聖化」を用いて、また先生が準備されたレジメをもつて、きばきと短時間にお話が進められました。二同心に燃えるのを覚えつつ学びました。終わりましたあと、出席者が教会ごとに挨拶をし、交わりました。楽しいときでした。そのとき、竿代先生のお話を、もう一時間はお聞きしたかったとの声がありました。

最後に高島俊夫会長の挨拶や、四国聖化交友会への参加のおすすぬめなどがありまして、四国聖化交友会の今後の成長と働きの祝福が切に期待される第一回の大会でありました。お祈りを感じて報告とします。

事務局だより

- ▶ 聖化第44号をお届けします。全国各地の聖化大会の祝福をお祈りいたします。
- ▶ JHAのホームページが開設されました。様々な情報が得られます。

今すぐアクセス!

<http://jha.christ.gr.jp/>



聖霊と火のバプテスマに生きる

山形聖化交友会委員長  
 イムヌエル綜合伝道団山形キリスト教会牧師 釣 稔

「今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。」(ローマ6章19節)

山形は日本の東北の入口の県です。持家保有率全国第2位、自動車保有台数第2位の県で、日本古来の田園風景が最も色濃く広範囲に広がっている県、地震・洪水・台風被害の少ない県、サクランボとラ・フランス等の果実が県産産物を飾り、芭蕉の歴史的足跡が随所に見られる県です。またキリスト教育を主体とする高校も二つある県です。

この山形にも、十字架の血潮と信仰によって得られる全き聖潔を信じる教会群による「山形聖化交友会」が誕生して丸12年経過しました。ウエスレアン・ホーリネス教会の岡師によって始められました。9教会が中核教会として、6教会が協賛教会と

して参加している地方JHAです。

聖書は「あらゆる行いに於いて聖なる者とされよ」、「それは私が聖であるからあなたがた自身もあらゆる行いに於いて聖でなければならぬ」、また「その手足を捧げて聖潔に進みなさい」と語り、新約の神の子らは聖霊の聖潔を受けた人々であるべきだと勧告しています。感謝な勧告です。

人の世は経済力、能力、人柄の魅力等について言えば、大きな格差社会です。出来る人、乏しさを感ずる人もあるかも知れません。持てる人、持たざる人という格差もあるでしょう。

そこにガラテヤ5章の如く、「互いにいどみ合ったり、そねみ合ったりして、虚栄に走る。」傾向が生まれま

まさに「聖霊と火のバプテスマ」を

お授けになる方への期待と信仰と祈りがあるわけです。聖霊と火のバプテスマをお授けになる方は我々に遠い方でなく、隔絶した世界に住む手の届かぬ方ではありません。主イエスは御昇天の前「…もう間もなくあなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。だからエルサレムを離れないで、私から聞いた父の約束を待ちなさい」と語られました。この言葉は弟子らへのものであるだけでなく、すべての神の子らへの言葉です。

マルコ13章で「私があなたがたに話している事はすべての人に言っているのです。目を覚ましていなさい」と語られたからです。大能の神と心が通じて祈るには時間がかかりますが、待ち望む祈りをもって、聖霊と火のバプテスマに進みたいものです。